

平成 27 年 11 月 27 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長兼 CEO 此下 竜矢
(コード 2388 東証 J A S D A Q 市場)
問合せ先 開示担当 横山 幸弘
(TEL 03 - 6225 - 2207)

GL、ASEAN に翼を広げ、割賦販売事業の牽引者に…

～雑誌 Power Time11 月号記事より～

当社の重要な子会社であります SET(タイ証券取引所)上場のファイナンス会社 Group Lease Public Company Limited(以下、「GL 社」といいます。)は、このたび雑誌 Power Time11 月号の記事に掲載されました。同誌の出版社の許諾を得て、当社にて翻訳をいたしましたので皆様にご紹介いたします。

GL 社は、2015 年 11 月 10 日に第3四半期決算発表を行い、カンボジア事業の成長、タイ事業の利益率回復、ラオス事業の利益化などを後押しに、四半期として過去最高利益を報告いたしました。これに伴いタイ国内においては主要な全国紙、証券新聞、WEB サイトなどにおいて数多くの報道がなされており、雑誌 Power Time11 月号でも今後の見通しを含め詳細にレポートされております。

当該雑誌の内容を日本語訳し、皆様にお届け申し上げます。

(別紙、雑誌 Power Time11 月号記事の和訳)

Source: Corehoon-Powertime Magazine

以 上

POWER TIME

Corehoon-Powertime Magazine
www.powertimetoday.com



การบริหารจัดการด้วย
ความเป็นเลิศ

ปีที่ 10 Vol. 117 เดือนพฤศจิกายน 2558



此下益司

GL、ASEAN に翼を広げ、割賦販売事業の牽引者に

Mitsuji Konoshita : Championing
Successful Expansion Into CLMV + Indonesia



ดร.อาภรณ์ กาณิว่อง
ประธานเจ้าหน้าที่รองงานการตลาด
โทร: ๐๒-๒๖๖๖-๖๖๖๖ ๖๖๖๖-๖๖๖๖



นายบุญฤทธิ์ หวังเจริญ
ประธานเจ้าหน้าที่บริหาร
การเงิน



นายณพพล พิทินทางกู
ประธานเจ้าหน้าที่บริหาร
โทร: ๐๒-๒๖๖๖-๖๖๖๖ ๖๖๖๖-๖๖๖๖



นายธีระชัย ปองศักดิ์
ประธานกรรมการผู้จัดการ
บริษัทธนภัท ภูเก็ตทอร์ม





此下益司

GL、ASEANに翼を広げ、

割賦販売事業の牽引者に…

オートバイ割賦販売事業を牽引する企業のひとつ、グループ・リース株式会社（GL）は、その成長への前進を止める事を知らない。CIMV市場に積極的に飛び込んだ結果、カンボジアを中心とする海外事業の業績がタイの業績を追い抜いた。

GLの会長兼最高経営責任者である此下益司氏は、成功の喜びを感じている。同社はホンダのオートバイ・クボタのトラクターの割賦販売事業、ナノファイナンス事業のほか、中小企業（SME）向けの貸付事業へと歩を進めた。



最高益を更新

オートバイ割賦販売事業を行うグループ・リース株式会社（GL）の会長兼最高経営責任者である此下益司氏は、2015年第3四半期の純利益が同社の過去最高益を更新したことを明らかにした。利益の内訳は、タイ国内事業の利益が約7000万パーツで前四半期純利益と同レベルだった。残りの約8000万パーツは、カンボジアを主とする海外事業の利益で、海外事業利益が国内事業利益を初めて超過した。今期の純利益は、前四半期から約16%増加している。

同氏は、アジア諸国への事業拡大が成功することを確信していると語った。海外事業、特にカンボジア事業の利益の比率が、今後タイ国内事業利益比率より拡大することは必至。カンボジア事業は、今後長期に渡る成長が期待される。経済の成長が続いているほか、安定した収入があり、購買力を持つ中所得者層が増加しているからである。この中所得者層が、GLの直接の顧客になっている。これまでGLは、ホンダのオートバイやクボタのトラクターの割賦販売事業をはじめ、ナノファイナンス事業を展開してきたが、最近中小企業（SME）を対象にした融資に事業を拡大している。

「中小企業を対象にした融資事業は、カンボジア事業の重要な基盤拡大であり、将来の売上・利益に大きく貢献してくれるでしょう。」

カンボジアの大きな貸付ポートフォリオ

同氏によると、カンボジアにおけるGLの貸付ポートフォリオは、現在約8000万ドルである。大半が質の良い貸付で、不良債権（NPL）率は0.4%とかなり低い。GLの子会社であるGL FINANCE (GLF)は、オートバイ割賦販売の貸付を1ヶ月あたり約2000台行っているが、年末には約3000台に増加する見通しである。さらに来年には3000-5000台に増加すると見られている。

「カンボジアの割賦販売の貸付ポートフォリオは、ホンダのオートバイとクボタのトラクターから成っていますが、今年6月末の4500万ドル（約16億パーツ）から、年末には8000万-1億ドルに倍増する見通しです。さらに市場の潜在成長能力が非常に高いため、カンボジアの総貸付ポートフォリオは、2016年末には約2億5000万ドルと、2.5倍に成長すると考えられます。タイの貸付ポートフォリオと比較すると、とてつもない成長率です。タイの貸付ポートフォリオは現在の50億パーツから、2016年末には55億パーツに成長すると見えています。」





マーケットシェアを有している。加えて当該地方の市場は、現在変動している世界の金融市場の影響を全く受けないことも強みである。

具体的には、カンボジアでの事業拡大において、GLは顧客の信用評価を迅速に効率的に行うEファイナンスシステムを開発している。当該システムを事業展開が始まったばかりのラオスでも導入。さらに会社設立の過程を完了し、事業許可を得られれば、インドネシアでの事業展開においても当該システムを導入する予定である。

タイ国内事業については、安定性が増していると言える。成長は見られないが、タイ経済の回復に伴い、資産の質が徐々に向上しているほか、会社の経営効率が改善している。タイ国内事業の現在の貸付ポートフォリオは約50億パーツで、NPL率は6.5%。年末には5%に低下する見込みである。



負債が減少、第4四半期利益が急成長

此下益司氏によると、カンボジアの業績が著しい成長を見せているほか、2014年第3四半期に1億3,866万パーツあった不良債権が、2015年第3四半期は8,343万パーツと、39.83%減少した。このことから、親会社・子会社とも債務者の質が向上していることがわかる。

その他著しい増益の一因として、回収オートバイの売却損が、2014年第3四半期の1億3,506万パーツから、今期は9,114万パーツと32.52%減少した事があげられる。

2015年第4四半期業績であるが、当業界のハイシーズンでもあり、さらなる成長が期待される。特にカンボジアとラオスの事業の成長が著しい。ラオス事業はこの第4四半期から利益を出し始めると見られる。インドネシアへの進出については、2016年年初から創業できる見通し。将来の売上・利益が期待される。



同氏は、カンボジアの成長能力はかなり高いと説明する。この成長を支えている、GLの顧客の80%が地方在住者。ここ数年間地方の開発・成長が続いており、新しい道路の建設や住宅建設が支援材料となっている。これらの開発が、購買能力を有する新しい消費者層を形成している。これは過去には見られなかったことだと言う。

この新しい消費者層は、市場として大規模である。GLの競合相手は大半が大都市での事業展開に集中しているため、この層に行き着かない。よってGLのカンボジアの子会社であるGLファイナンスは、割賦販売事業の先駆者として君臨、95%の



GL は、CLMV 諸国へ積極的に市場を拡大し、大きな成功を収めているタイ証券取引所上場会社である。その戦略は、5年以内に ASEAN で割賦販売事業のトップに立つという会社の目標に合致している。

アジアにおける割賦販売事業牽引者へ

同氏は引き続き GL の ASEAN 進出戦略について、人口 2 億 5000 万を有する ASEAN 最大の市場であるインドネシアに進出するため、新会社設立の過程にあることを明らかにした。ローカル銀行と提携し、その支店網を使って割賦販売市場に浸透していく。ASEAN における割賦販売事業のトップとなるための布石だ。

「GL は、インドネシア市場に進出するため、新会社設立の過程にあります。新会社は、GLH(シンガポールの GL の持ち株会社)が 65%、日本の J トラストアジアグループが 20%、インドネシアのローカルグループが 15%出資する合弁会社となります。

この新会社は、J トラストアジアグループが所有するインドネシアのローカル銀行の 62 ヶ所ある支店網を窓口とし、オートバイ、トラクター、電気製品およびソーラーパネルの割賦販売事業を展開します。と同時に同社はローカルのファイナンス事業者との合併交渉をある程度続け、この度合意に至っております。」と同氏は語る。

インドネシア事業は年内に営業開始

この件に関し、同社は 9 月にタイ証券取引所に、当該合弁会社の名称を PT JTrust Finance Indonesia とし、登録資本を約 700 万 US ドル (2 億 4500 万バーツ) と申告している。此下益司氏によると、当該新会社の登記は 2-3 ヶ月以内に終わり、年内に営業を開始できる見込みである。

「インドネシア市場への進出によって新しい第一歩が始まり、将来の総売上高・利益が最高記録を塗り替えることになるでしょう。インドネシア市場はカンボジア市場に似たところがあります。2-3 年前人口の大半が貧困層で、十分な購買能力もありませんでした。しかし経済の発展が続いたことから、人口の大半の生活が向上、安定した収入と購買力が増し、現在の我々の顧客となっています。しかしインドネシアは人口が 2 億 5000 万人以上あり、市場の規模はカンボジアの 10 倍になります。」と同氏は語る。



ミャンマー、ベトナムでも交渉中

ミャンマーへの投資について同氏は、

政府の経済・政治改革により、同国の経済が順調に成長していると指摘。市場調査を開始し、投資計画の立案が始まっている。2016年に具体的な動きができると言う。ベトナム市場については、ローカルのファイナンス会社と合併・買収の交渉を続けている。

「これらが、潜在成長能力が高く、良い利益率が期待できる新興市場の CLMV 諸国へ進出する計画です。タイ国内事業についても、我々は引き続き成長を目指して頑張ります。」と同氏は述べた。

GL は Turn Around (反転) の時期に

同氏は過去の業績との比較について言及した。2014年第4四半期の受取利息収入は4億7522万バーツで、前年同期の3億4959万バーツから36%増加した。当該数字は、2014年半ばにGLが買収したタナバンの決算を含んでいる。一方2014年第4四半期純利益は9676万バーツで、前年同期のわずか1319万バーツから606%増加した。売上高が増加したほか、不良債権が減少、さらに回収オートバイの売却損が減少したことなどが、増益の要因である。

「当社の業績は今後回復期に入り、最高益をどんどん塗り替えると思われれます。タイ国内事業が成長を続けているからです。総貸付額は、2013年末の42億バーツから2014年末には63億バーツと50%成長しました。カンボジア事業の利益成長も、今後の重要なファクターです。」

同氏はさらにこう述べている。GLの事業拠点は今後もタイであることに変わりはないが、ASEAN諸国における事業からの総売上高・利益の割合がどんどん拡大すると考えられる。例えば今年第3四半期のカンボジアとタイの利益は同レベルで、第4四半期以降はカンボジアの利益がタイ利益を超過する。

この様にGLはCLMV市場に積極的に進出した結果、飛躍的な成長を成し遂げた。その勢いは止まらず、ASEANに翼を広げ、オートバイ割賦販売事業の牽引者としての道を歩むのである。

テニス選手であった同氏は、コートを手放して組織へ利益を供給する事業家となった…。しかしこの日本人の元テニス選手は、スマッシュを一回一回打つ度に力を無駄に込めていた訳ではない…。結果として大金を組織や株主にもたらした。彼がスマッシュを叩き続けることは明白である…。